

JIA神奈川 かながわ建築祭

日本建築家協会関東甲信越支部神奈川地域会（JIA神奈川、小泉雅生代表）は21-24日の4日間、横浜市のみなとみらい線馬車道駅コンコース・改札口や横浜メディア・ビジネスセンターなどを会場に、第30回JIA神奈川建築WEEK「かながわ建築祭2019」を開いた。各会場には多くの来場者が詰め掛け、シンポジウムなどに耳を傾けるとともに、展示された作品を見入っていた。



シンポジウムには多くの来場者が詰め掛けた

23日に横浜メディア・ビジネスセンターで開いたシンポジウムは、「『建築から環境へ』環境デザインの課題と可能性」―「村野藤吾 横浜市庁舎の価値と可能性」の2つをテーマにそれぞれ行われ、村野藤吾が設計した現市庁舎の今後を考えるシンポジウムには、約70人が参加し、関心の高さを窺わせた。

来場者詰め掛け大盛況 現横浜市庁舎の歴史的価値訴え



左から千場氏、笠井氏、星野氏、馬場審査委員、室伏氏、野沢審査委員長、飯田氏、近藤審査委員、納谷氏

現市庁舎の歴史的な意義や果たしてきた役割、現代の価値、これからの可能性を、吉田鋼市横浜国大名誉教授、田原幸夫京都工芸繊維大教授、笠井三義カサイアーキテクチャルデザイン代表取締役、小泉代表らで多面的に議論し、改めて現市庁舎の歴史的な価値と保存・活用を訴えた。

馬車道駅コンコースで開いた神奈川の近代建築展では、神奈川県内の村野藤吾建築も紹介した。

一方、環境デザインのシンポジウムでは、田井勝馬副代表の司会の下、秋元孝之丞浦工大教授、荻原廣大大阪工大客員教授（アラップ・アンシエイト）、末光弘和SUEP代表が環境デザインの課題と可能性を探った。

■第3回デザインアワード／大賞に室伏氏の「北嶺町の家」

24日に馬車道駅コンコースで開いた第3回JIA神奈川デザインアワードでは、公開審査の結果、応募29作品の中から室伏次郎氏（スタジオアルテック）の「北嶺町の家」が大賞に輝いた。優秀賞には笠井三義氏（カサイアーキテクチャルデザイン）の「街のサステナビリティ（街歩きを通して）」、星野千絵氏（コバルトデザイン一級建築士事務所）の「Book&Cafe stand Shinjo Gekijō」が選ばれた。

今回は「今、サステナビリティを考える」をテーマに募集し、室伏氏の作品は、1971年に竣工した自邸の現在に至るまでの変遷を描いたもので、家族構成などの変化とともに、骨格は変わることなく、微細な調整を繰り返しながら生活シーンに對

応してきた住宅のリアルなストーリーが高く評価された。審査委員長は野沢正光氏（野沢正光建築工房）、審査員は近藤哲雄氏（近藤哲雄建築設計事務所）、馬場兼伸氏（ビーツーアーキテクト）が務めた。

審査員特別賞として、野沢賞に飯田善彦氏（飯田善彦建築工房）の「ミナガーデン十日市場」、近藤賞に納谷新氏（納谷建築設計事務所）の「361」、馬場賞に安田博道氏（環境デザイン・アトリエ一級建築士事務所）と石丸由美子氏（イシマル建築設計室）、千場弓子氏（studio BO5）の共同作品「ときにわオフィス」が選ばれた。

■金賞に笹原さん（明大）、総合資格学院賞は前田さん（神奈川大）／卒業設計コンクール
また、同じく馬車道駅コンコースでは神奈川県内各大学の卒業設計コンクールも開かれ、公開審査の結果、金賞には7大学35作品の中から笹原淳平さん（明大）の「織木を編む」が輝



金賞に輝いた笹原さん



総合資格学院賞に選ばれた前田さん

いた。銀賞には井上恵友さん（慶大）の「expand」、銅賞には佐塚将太さん（神奈川大）の「日常をつなぐ架け橋」、協賛する総合資格の総合資格学院賞には、一般投票で最多票を得た前田沙希さん（神奈川大）の「空際の秋葉原」が選ばれた。金賞と銀賞は全国大会に推薦する。

審査は、委員長を木下庸子（設計組織ADH）、委員は遠藤克彦（遠藤克彦建築研究所）、仲俊治（仲建築設計スタジオ）、原田馬魚（MOUNT FUJI ARCHITECTS STUDIO）の計4氏が務めた。個人賞として、木下賞に若見遥果さん（慶大）の「Scrap Board」、遠藤賞に石田卓也さん（横浜国大）の「裏山風呂暮らし」、仲賞に藤田一摩さん（横浜国大）の「神保町古本キャンパス」、原田賞に十文字萌さん（明大）の「渋谷受肉計画」が選ばれた。